



マテリアリティ エンジニアリングを活かした快適環境の構築

プラント設備事業



取締役 専務執行役員
プラント設備事業本部長
飯嶋 和明

プラント設備事業は、機械システム事業と環境システム事業の2つの事業領域にて独自性の高いソリューションにより社会インフラを支えています。2025年度、機械システム事業では、市場の一時的な調整局面と大型案件の変動により、減収・減益という結果となりました。今後はターゲット市場の明確化を行い、戦略的な自社開発製品の投入による高付加価値化を図ることで、収益性の改善を進めてまいります。環境システム事業では、前期並みの業績を示した反面、大型工事が受注に結びつかない面がありました。長年培ってきた水処理・廃棄物処理での技術力と開発力を背景に、引き続きグループ会社と協業してLCE事業の獲得を主軸に推進していきます。

これからもプラント設備事業は自動化・省人化、脱炭素、サーキュラーエコノミーといった社会課題に即した事業に取り組み、サステナブルな社会の構築に貢献してまいります。

機械システム事業

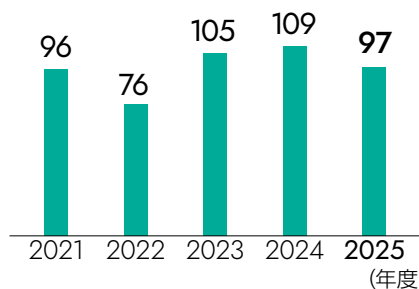
売上高構成比率

4%



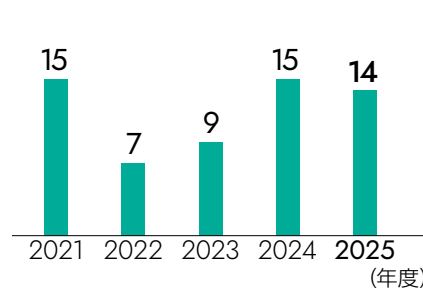
売上高(億円)

97億円



売上総利益(億円)

14億円



機械システム事業は、長年にわたる誠実な顧客対応と、特殊環境下におけるマテリアルハンドリングと空調技術を融合した独自のソリューションを強みとして、顧客からの深い信頼を積み重ねてまいりました。この強みは現在においても当事業の重要な基盤であります。

しかしながら、2025年度の業績は計画を大幅に下回る結果となりました。受注体制の見直しと事業基盤の安定化が重要な課題となりましたが、こうした課題の顕在化は、事業変革に向けた重要な出発点であると認識しております。

これを受け、2026年度より、機能横断型組織への移行、ターゲット産業の絞り込み、高付加価値製品の拡充という3つを柱として着実に推進し、収益性の改善と持続的な成長に向けて全力で取り組んでまいります。



執行役員 機械システム事業本部長
橋本 直樹

市場環境

当事業部の主戦場であるマテリアルハンドリング市場は、EC需要拡大や省人化投資を背景に成長してきましたが、大型物流施設向け投資の一巡により成長が鈍化し、現在は一時的な調整局面にあると考えています。特に、主力商品である仕分機やコンベヤは大型案件への依存度が高く、需要変動が大きい傾向にあります。こうした動きは一過性である可能性もありますが、近年は物流投資のピークアウトに加え、海外製機器の流入やスタートアップの台頭により、競争環境が変化しており、その動向を注視しています。

市場別では、自動車関連の引合いは堅調な一方、車載電池関連投資は、発注や設備導入の延期が見られます。他方AI向け半導体市場の拡大を背景に後工程自動化への投資が見込まれており、専用機器の開発も含めた設備投資需要の取り込みを進めています。また、軽搬送コンベヤは収益性こそ改善しているものの、市場縮小により生産数量は減少傾向にあり、高付加価値製品の開発と展開が課題です。事業環境面では、資材・部品の供給制約は概ね解消し、価格高騰も落ち着きつつありますが、中東情勢の緊迫化や貿易慣行の変化など外部環境の不確実性は依然として高く、影響を注視する必要があります。

事業戦略に基づく施策

機能横断型体制への移行

2026年度より組織再編を実施し、従来の縦割型組織から製販機電一体の機能横断型組織へと転換しました。これにより、提案から設計、製造、納入、アフターサービスに至るまでの一貫した対応力を強化し、機能間連携による迅速かつ専門性の高い顧客対応を実現します。この体制により、顧客満足度の向上と継続的な信頼関係の構築を図り、競争優位の創出につなげていきます。

ターゲット領域の選択と集中

「ターゲット産業を明確化し独自ポジションを確立」を志向し、重点業界・用途を定めた上で、強みを最大

限発揮できる領域に集中します。顧客の要求に対して短期間で最適解を提供できる技術力と対応力を活かし、選定したターゲット市場において差別化されたポジションの確立を目指します。

ターゲット産業	分類	方針
自動車関連 半導体関連 空港関連	成長領域	積極投資・M&Aを含む外部連携で競争力強化
医療・食品関連	安定領域	強みを活かした維持強化・安定受注の確保

高付加価値製品の拡充

当社の提供価値を再定義し、競争優位性の高い製品・事業領域へ経営資源を重点的に投入してまいります。当社単独では対応が難しい領域については外部パートナーとの協業を積極的に推進し、新たな価値の創出と競争力のさらなる強化を図ります。全社中期経営計画の重点テーマである「深化と共創」に沿い、技術開発の強化ならびにICTの活用を推進するとともに、プロセス・試験装置メーカーや海外企業との連携・提携を積極的に進めてまいります。

2025年度の主な取り組みと成果

2022年に開発した「メリス・ビアンカ®」の付加価値をさらに高めるため新たな管理システムを開発し、株式会社安川電機のサーボモータ製造ラインへの納入を実現しました。お客様の業務課題に対する提案力、技術的な柔軟性、迅速なサポート体制が高く評価され採用につながりました。



主な施工実績

- 株式会社安川電機(工程間搬送システム)
- ダイドー株式会社(部品在庫システム)
- 成田国際空港株式会社(1PTB北ウイングBRS導入工事)
- 日産自動車株式会社(タイヤ搬送設備)
- 株式会社荏原製作所(洗浄機自動コンベヤ)